

SDGs未来都市・横浜

ヨコハマSDGsデザインセンターのプロジェクトの1つとして
横浜産の木製ストロー「SDGsストロー・ヨコハマ」で
脱プラスチックに貢献

横浜市は「SDGs未来都市・横浜」の実現に向けて、「ヨコハマSDGsデザインセンター*（以下「デザインセンター）」を中心に、市民・企業・大学等と連携し取組を進めています。

このたび、デザインセンターが中心となり、企業の発案・協力のもと、山梨県道志村内の横浜市が保有する水源林の間伐材を原材料とし、市内企業の特例子会社*等で障害者の方々が製作する横浜産の木製ストロー「SDGsストロー・ヨコハマ」が完成しました。本ストローを、ヨコハマ・ウッドストロー・プロジェクト（以下「プロジェクト」）として、市内をはじめとする飲食店・ホテル等へ、広く普及・拡大を進めていきます。



※障害者の雇用の促進等に関する法律第44条の規定により、一定の要件を満たした上で厚生労働大臣の認可を受けて、企業が障害者の雇用の促進を目的でつくる子会社

プロジェクトの取組概要

近年、廃プラスチックによる海洋汚染が地球規模での課題として認識されており、今年のG20では、会議の主要テーマの1つとして取り上げられました。特に、使い捨てのストローは、レジ袋と並び、海洋プラスチック汚染の代表的な存在として、その削減に関心が集まっています。

本プロジェクトは、横浜産の木製ストローの普及を通じ、温暖化対策や海洋プラスチックゼロエミッション、森林環境保全や天然資源の有効利用、あらゆる人の活躍、新たなビジネスモデル構築等を図り、SDGs未来都市・横浜が目指す、**環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る横浜型「大都市モデル」を実現する取組の1つ**です。

今後、大都市モデルを他都市・他地域へ普及・展開し、ウッドストローの普及に取り組む他自治体との連携によるプラスチック対策の機運醸成など、横浜市のプラスチック対策に資する取組の一つとして、様々な主体と連携しプロジェクトを推進していきます。

《環境・経済・社会的課題への主な取組》

- 山梨県道志村内の横浜市が保有する水源林の間伐材を利用したウッドストロー用の薄板を作成します。 **環境**
- これを材料とし、市内企業の特例子会社や市内の障害者地域作業所等がウッドストローを製造します。（12月1日提供開始予定） **経済** **社会**
- 今後、市内の飲食店・ホテル等への利用促進を図るとともに、市域外への普及・展開も進めていきます。（※成田空港内での使用に向け株式会社NAAリテイリングと調整中） **環境** **経済**
- 脱プラスチックや環境関連の様々なイベントでの普及啓発等により利用者の拡大を図るとともに、ウッドストローの普及に取り組む他自治体とネットワークを構築し、都市間連携による相乗効果を図ります。 **環境** **社会**

裏面あり



横浜型大都市モデルの実現



他都市・地域へ普及・展開
都市間連携等によるプラスチック対策ムーブメントの醸成

◆水源林の間伐材について

横浜市は、市の貴重な水源の一つである道志川が流れる山梨県道志村に水源林を保有し、水源かん養機能などの環境保全機能を高めるよう計画的な水源林の整備を進めています。水源林の整備作業で得た間伐材は、現在建設中の新市庁舎の市民ラウンジ等にも活用予定です。

◆ヨコハマ・ウッドストロー・プロジェクト協力団体（※記者発表時点）

- ヨコハマSDGsデザインセンター : プロジェクトの企画・総括・PR
- 水道局水源林管理所（山梨県南都留郡道志村） : 間伐材の提供
- 北都留森林組合（山梨県上野原市） : ウッドストロー薄板製作
- 日総びゅあ株式会社（横浜市港北区） : ウッドストロー製品製作
- 株式会社アキュラホーム（東京都新宿区） : ウッドストロー企画発案・監修・品質管理

※「SDGs 未来都市・横浜」の実現を目指し、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る、横浜型「大都市モデル」の創出に向け、多様な主体との連携によって自らも課題解決に取り組む中間支援組織【ウェブサイト】<https://yokohama-sdgs.jp/> **ヨコハマ SDGs デザインセンター** 

お問合せ先

温暖化対策統括本部 SDGs 未来都市推進課長 高橋 知宏 Tel 045-671-3901